



Pocket board PURE

雑貨感覚で気楽に持てる 異色の“かわいい”PDA

丸っこいフォルム、スケルトンのボディ、とぼけたヒヨコが愛嬌を振りまく液晶画面…。「かわいい」を前面に押し出した外見とメールの送受信に絞ったシンプルな機能とが「Pocket board PURE」の特徴だ。そこからは作り手の想定するユーザー層と用途が明確に見て取れる。

化粧品を意識した スケルトンのボディ

「プライベート感を出したかったんです」。NTTドコモで初代ポケボ一から開発に携わってきた増田智子氏は言う。「私自身が20代の女性ユーザーの代表なんです」。ピュアは、そんな彼女の「時計のG-

SHOCK のように男女を問わない“かわいい”という感覚を取り入れたい…」「化粧品のオードブラン(上写真)のような色合いで…」といったイメージを、デザイナーが具現化して生まれた。仕上がりは、化粧品というよりはむしろ文房具のイメージが強いが、よくまとまっていける。逆説的にはなるが、「誰もが気軽に持てるコミュニケーションツール」というねらいは文房具的なライト感覚のデザインで、より明瞭に表現されているように思う。

ひたすら“かわいい”を目指し、あらゆる流行モノを引用して企画された感のあるピュアだが、携帯電話との接続コードの収納方法や小

さいながらに打ちやすいキーボードなど、実用面での使用感は、かなり細かく検討されている。また、外から見える内部メカや外装の裏側にもデザインの気配りがみられる。液晶周りのグラフィックとロゴが野暮ったいのは、やや残念なところだ。

ポケボ一は、ポケベルを呼び出すビジネスユースの端末として企画がスタートし、途中でターゲットを変更した。それもあって、初代ではデザイナーとの間でコンセンサスを固めるのに苦労したという。確かに、ポケボ一のように単機能で“かわいい”を売りにした端末はこれまで例がなかった。その意味で、この商品は非常に個性的な存在だ。



両モデルに共通の、一枚板のキーボードは透けて見えても美しいようデザインされている。



化粧品のコンパクトをイメージした開閉部。携帯電話を接続したままフタを閉めることもできる。

PROFILE ● 酒井俊彦(さかいとしひこ)

サカイデザインアソシエイツ代表。87年東京造形大学卒業。通産省選定グッドデザイン賞、アビターレイテンが展覧(伊)。1995デザインの現在展(加)ほか。